

景観グループ



虫だより

◆ 花班の活動

山中 笙子

ならやまの春を咲かせ、つなげていった花たち。コロナ禍により、イチハツや矢車菊、ジャーマンアイリスの開花時に合えず、「春」が抜け落ちたような気分でした。花たちをほうっておくこともできず、自己判断で活動に参加しました。新しいメンバーが増え、アジサイやシャガの柵作りを経験され、共に楽しみながらの作業は早く片付きます。

花班では、午前中に時々休憩時間を持つことがあります(もぐもぐタイム)。連絡事項や水分補給、おやつで次の活動へ元気が出ます。時には簡単な植物の勉強もあります。例えば、植物が赤紫色に変色しているのは、強い太陽の紫外線の害から植物を守っているアントシアニンの色素だと。また5月、秋の七草・フジバカマの成長が悪く連作障害が疑われ隣の地に移植することに。土を軟らかく耕し炭を入れ、石灰を撒き、腐葉土もたっぷり混ぜ水やりをしました。勉強と作業がつながると解りやすいですね。

長い梅雨には、ナデシコや千日紅を植えました。この頃にはヒオウギスイセンやヤブカンゾウ、キキョウが咲き、花色の鮮やかさにしばらく眺めました。花たちにとってはコロナなんて関係ないようです。

コロナに加えて猛暑に見舞われ、熱中症を避け涼しい日陰を探しての作業です。日当たりが良すぎる山野草園では、高く伸びた雑草群に覆われ何も見えず、移植したフジバカマの様子も分かりません。助けてあげたいけれど、「ご免、花より団子ではなく、人の命なのよ」と我慢してもらっています。今年の開花は無理でしょうね。仲間のヒヨドリバナは蕾、間もなく咲く花は白く芳香はありませんが。



◆ 昆虫の英語名(1)

菊川 年明

セセリチョウ

セセリチョウという小型で地味なチョウのグループ(科)がある。胴はガのように太いので、よくガと間違えられる。とりわけ特徴的なのはその飛び方で、つぶてのように一直線に敏捷に飛ぶ。チョウの英語名は一般的にはバタフライであるがセセリチョウ類だけはスキッパー(skipper)と呼ばれている。弾むような飛び方



に由来する。和名は口吻で花をせせるところから。(写真はイチモンジセセリ)

アメンボ

アメンボ類は水面上をすいすいと走る。脚に毛があり水をはじくので水面に浮かんでいられるのである。英語名はポンドスケーター(pond skater)で、スケートをする人に見立てている。



和名は飴のような匂いがする棒のような虫という意味らしい。(写真はナミアメンボ)

シリアゲムシ

シリアゲムシ(類)という名前はオスだけではあるが複端(尻)を背中側に持ち上げていることによる。英語名はスコープオンフライ(scorpion fly)で、サソリ虫(羽のある虫)ということになるだろうか。サソリになぞらえた名付けである。サソリを思わせる恐ろしげな姿をして



ているが、刺したり、噛んだりする昆虫ではない。(写真はヤマトシリアゲムシ)